

緑と暮らす

【第6回】

都市の緑3表彰 第44回「緑の都市賞」内閣総理大臣賞

命をつなぐPROJECT

愛知県知多市・東海市・大府市



工業地帯と住宅地を隔てるように緑地帯が続いている。すぐ横を東海市から知多市をつなぐ西知多産業道路が通る。

愛知県知多半島の北西部には中京工業地帯の一角をなすコンビナートが広がっている。その工場群と住宅街の間の緑地帯（幅100m、長さ10kmのグリーンベルト）で緑を守る活動をする団体「命をつなぐPROJECT」が、2024年10月、公益財団法人都市緑化機構主催の「緑の都市賞」（特別協賛・一般財団法人第一生命財団）の内閣総理大臣賞を受賞した。

このコンビナートは1960年代に沿岸部を埋め立てて建設され、工場と住宅街を隔てるために緑地が造成された。その管理は工場を経営する企業が個別に行っていたが、2010年に名古屋市中で開催されたCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）をきっかけに、地域の環境保全活動や環境教育を支援するNPO法人日本エコロジスト支援協会が「命をつなぐPROJECT」を提案し、2011年から取り組んでいる。

同プロジェクトには企業や自治体、大学、関連NPOなどが参加しているが、実際の活動の主体は学生組織である。学生たちが、ビオトープの整備、アニマルパスウェイの造成、外来種の駆除、在来種の育成、動植物のモニタリングなどを行っている。

さらに、地域住民に向けた緑地見学会やフリースペーパーの発行など、広報活動にも力を入れている。



プロジェクトに参加する大同特殊鋼株式会社知多工場にあるビオトープ（2008 年整備） 工場の西側には広さ 1500m² の大きなビオトープがある。学生組織が中心となって、外来種の駆除や清掃活動などを行っている。この池にはチョウトンボなど多くのトンボが生息している。



プロジェクトの一環で 2016 年に整備したビオトープ 工場東側に、動物の水飲み場や水生昆虫が生きるビオトープをつくった。水場の効果か、ビオトープに設置したカメラで、タヌキが約 40 年ぶりに観察された（写真左）。

アニマルパスウェイ（大同特殊鋼株式会社） 動物たちが緑地帯を自由に行き来できるように、日本製鉄株式会社との境界にあるフェンスの一部を切って、動物の抜け穴をつくっている。フェンスの向こう側が日本製鉄株式会社の敷地。



プロジェクトに参加する愛知製鋼株式会社の中新田緑地 愛知製鋼株式会社知多工場では、樹木が育ちにくい臨海部の埋め立て地においても成木を植林するなどの工夫をして豊かな緑地を育成している。猛禽類（オオタカ、ハイタカなど）、鳥類（セッカなど）、昆虫類（ギンヤンマ、ナミアゲハなど）、植物（ヤマザクラ、コナラ、エノキなど）、魚類（ミナミメダカなど）、ほ乳類（ホンダタヌキ、ホンドキツネなど）など、50種の指標種が集まる環境づくりに向けた取り組みを進めている。2023年度までに確認された指標種は22種だったが、2024年2月から6月に大規模な整備を行った結果、29種に増えた（2024年10月時点）。とくに小川や池のまわりにたくさんの樹木を植樹したため、これまで見られなかった昆虫の生息も確認された。



アキアカネ（2023年11月撮影）



メジロ（2024年11月撮影）

中新田緑地のビオトープ ミナミメダカやアキアカネなど、季節ごとにさまざまな生き物が生息している。右奥に見えるのが、愛知製鋼株式会社知多工場。



緑地で植物の説明を受ける子どもたち 「命をつなぐPROJECT」では、地域の人々に緑地帯の自然を体験してもらうためのイベントを多数行っている。写真は、プロジェクトで連携している13の企業が緑地を一齐に開放する『Love! Green Day』。このイベントは毎年行っていて、企業の担当者や大学生が緑地を案内する。また、緑地から取り除いた外来種を使用したネイチャークラフト体験、炊き込みご飯体験なども行っている。



緑地から取り除いた竹を使った炊き込みご飯の体験 「命をつなぐPROJECT」が毎年12月に行っているイベント「Green smile Festa」で、企業の緑地帯で増えすぎたモウソウチク（孟宗竹）を取り除いて再利用して、炊き込みご飯を炊き、イベント参加者へ振る舞った。